

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：学芸員とともに宮城の文化遺産を学ぶプログラム

事業者名：東北歴史博物館

住所：宮城県多賀城市高崎1丁目22-1

TEL：022-368-0101

FAX：022-368-0103

HPアドレス：<http://www.thm.pref.miyagi.jp/>



東北歴史博物館

連携事業者名：わくや万葉の里天平ろまん館 ほか

会場：東北歴史博物館

わくや万葉の里天平ろまん館 ほか

事業期間：平成21年7月1日（水）

～ 平成22年2月26日（金）

1. 館の使命と本事業の関係

(1) 館の使命

1. 東北の姿を自ら再発見し、東北の存在を広く世界に発信することにより、国際化の時代にふさわしい地域づくりとその活性化に貢献する。
2. 既存の博物館のイメージを脱皮し、類例のない新しい博物館のあり方を追求する。
3. 「明日の東北」を考えるきっかけづくりを重視し、実社会と積極的に交流する博物館を目指す。

(2) 本事業との関係

本事業では、市民と博物館との距離をこれまで以上に縮め、市民が博物館を主体的かつ有効的に活用する機運を醸成することに努めた。これは当館の使命2及び3の実践である。また、市民の主体的な学習に寄与するため、博物館が有する学習サポート機能を効果的に発揮し、市民の身近に寄り添うよう努めた。これは当館の使命3および目標の「生涯学習ならびに調査研究に機会と場を提供する博物館」・「豊かな情報を提供する博物館」の実践である。さらに、市民及び県内博物館施設等との連携を図り、宮城県内をはじめ東北地方に特徴的にみられる多様性豊かで重要な文化遺産についての学習を協働して実施するよう努めた。学習の対象となる文化遺産のなかにはこれまで顧みられることの少なかったものも含まれている。これらは当館の使命1・3及び目標の「幅広く交流する博物館」等の実践である。

2. 企画内容

①事業目的

「学芸員とともに宮城の文化遺産を学ぶプログラム」（以下、「プログラム」と表記）は、宮城県内をはじめ東北地方に特徴的にみられる多様性豊かで重要な文化遺産について、他県に所在する類例及び参考事例等との比較検討を広く視野に入れつつ、特に宮城県内に所在する代表的なものを、市民、当館学芸職員及び連携施設の学芸職員または関係者がともに実地に学ぶ一連の学習カリキュラムである。

当プログラムは、当館学芸職員及び連携施設の学芸職員または関係者が協働し、事前学習及び現地見学会において市民への解説を行うとともに市民の学習サポートを務め、その成果

を市民が主体的にまとめることで、博物館を利用することによって初めて得られる上質な学習体験となるよう配慮した。これにより、市民と博物館との距離を縮めるだけでなく、博物館の多様な活動及び利用方法を市民が具体的に知悉する端緒となり、将来は、博物館をこれまでより主体的かつ有効的に活用し、博物館とともに成長する市民の出現を意図した。なお、当プログラムは、東北歴史博物館の開館 10 周年を記念して開催する特別展「東北の群像—みちのく祈りの名宝」の会期に合わせて実施した。

②事業概要

参加対象：一般応募による市民（中学生以上）

募集定員：A～Dコース各 25 名 4 コース計 100 名

募集方法：新聞告知、当館ホームページ

事業内容は以下のとおりである。市民が参画する学習カリキュラムはⅠからⅢの 3 ステップとし、参加者はすべてのステップに参画することを必須とした。

Ⅰ.事前学習として、市民は特別展「東北の群像—みちのく祈りの名宝」に出品される宮城県内外所在の関連文化遺産について深く学習し、フィールドワークで学習する文化遺産について当館学芸職員及び連携施設の学芸職員による解説を聴講し、質疑応答を行う。

Ⅱ.現地見学（フィールドワーク）として、市民は下記の 4 コースで宮城県内の文化遺産及びその関連施設を当館学芸職員及び連携施設の学芸職員または関係者とともに巡る。

Ⅲ.学習発表として、市民は事前学習及びフィールドワークによって得られた知見について、その後得られた関連情報等を付加するなど、より一層深化した成果にまとめ、学習発表を行う。

ⅠからⅢの過程で、当館学芸職員及び連携施設の学芸職員または関係者は、適宜、市民の学習サポートを行うよう努めた。なお、本事業では、事前学習から学習発表まで一貫して学習の参考に供するとともに、学習意欲の向上を図るべく、独自かつわかり易い内容の教材を当館学芸職員が中心となり作成し、市民に配布した。

■実施コース：

A. 仏教文化コース

戸倉神社（南三陸町）、大徳寺（登米市）、篁峯寺、黄金山神社、天平ろまん館（以上、涌谷町）

B. 近代化遺産コース

野蒜築港跡関連施設（東松島市）、石井閘門（石巻市）、品井沼干拓事業関連施設（大崎市ほか）

C. 縄文・亀ヶ岡文化コース

大木貝塚（七ヶ浜町）、里浜貝塚（東松島市）、山王圀遺跡（栗原市）

D. 伊達家ゆかりの塩竈・松島コース

鹽竈神社・志波彦神社、御釜神社（以上、塩竈市）、瑞巖寺、観瀾亭、五大堂（以上、松島町）

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

I. 事前学習会 A・B : H21 年 10 月 17 日(土)

C・D : H21 年 10 月 31 日(土)

参加者は、本事業のために作成した教材「みやぎの文化遺産」をもとに、特別展「東北の群像—みちのく祈りの名宝」に出品されている宮城県内外所在の関連文化遺産について学習し、また、現地見学会で学習する文化遺産について当館学芸職員及び連携施設の学芸職員による講座を聴講し、質疑応答を行った。



事前学習会（見学施設職員による講座）

II. 現地見学会 A・B : H21 年 11 月 23 日(月・祝)

C・D : H21 年 11 月 29 日(日)

参加者は、上記の4コース（A：仏教文化コース、B：近代化遺産コース、C：縄文・亀ヶ岡文化コース、D：伊達家ゆかりの塩竈・松島コース）で、それぞれ宮城県内の文化遺産及びその関連施設を当館学芸職員及び連携施設の学芸職員または関係者ととともに巡り、実地において文化遺産を学んだ。



現地見学会

III. 学習発表 館内掲示 : H22 年 1 月 9 日(土)

～24 日(日)

参加者は、事前学習会及び現地見学会によって得られた知見について、その後得られた関連情報等を付加するなどして、学習成果（A 3 用紙 1 枚程度）にまとめた。これらを館内で上記の期間中（2 週間）掲示した。

I から III の過程で、当館学芸職員及び連携施設の学芸職員または関係者は、適宜、市民の学習サポートを行った。



学習発表（当館エントランスで掲示）

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 67 人

内 訳： 一般（65 歳以上は 21 名）

（コース A : 26 名 コース B : 9 名 コース C : 16 名 コース D : 16 名）

(3) 事業により作成した印刷物等

『みやぎの文化遺産』64 頁

作成部数 300 部

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

- ・河北新聞 平成 21 年 9 月 6 日 朝刊
「イベントパーク」で参加者募集の紹介記事
- ・河北新聞 平成 21 年 9 月 8 日 朝刊
参加者募集の紹介記事
- ・河北新聞 平成 21 年 9 月 16 日 朝刊
21 面 参加者募集広告
- ・毎日新聞 平成 21 年 9 月 20 日 朝刊
紹介記事
- ・河北新聞 平成 21 年 9 月 24 日 夕刊
「イベント情報」で参加者募集の紹介



河北新報 朝刊 9 月 16 日 掲載

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

本事業の狙いは二つあった。ひとつは、特別展見学と文化遺産の現地見学を組み合わせることで参加者に充実した内容の学習機会を提供すること、もう一つは、学習成果の発表に向けて参加者が知り得た内容をまとめることで、より高い学習効果を得ることであった。さらには、これらの事業を通して、参加者の博物館活動に対する理解が深まることを期待した。

結果として、設定した 4 コースのうち 1 つは定員を超えるものもあり、複合的な学習体験に対する高いニーズが確認できた。そして、文化遺産の関連情報を視覚的にわかりやすく、かつコンパクトにまとめた教材を用い、当館学芸員と見学先の博物館や管理団体の職員が講師となって実施した事前学習会および現地見学会は、参加者からは内容が深くわかりやすいと好評を得た。全体として当プログラムに対しての参加者の満足度は高く、再企画への要望も寄せられた。また、事業実施中に参加者から直接、博物館や学芸員への理解が深まったとの声を掛けられることもあり、博物館と市民との距離を縮めるという目標についてもある程度達成できた。

一方、カリキュラムを進めていく上で、きめ細やかな参加者への対応が必要であることも痛感した。今回は学習成果の例を提示するだけで、その作成は参加者の自主性に委ねた。しかし、成果のまとめが困難であるとの声が多く寄せられた。学習成果作成にあたって、意見交換の場を持つなどのフォローが必要であったと思われる。

以上、本事業の実施により、当館が目標とした利用者との協働関係構築にあたってのノウハウと端緒を得た。この成果を今後の博物館活動において活かしていきたい。